

『少しだけの勇気』

小城市立小城中学校 1年 ^{あか}赤 ^{まつ}松 ^{りん}凜

私は以前おこった熊本地震や今回の大雨のニュースを見て、「警報が鳴った、耳が聞こえなかつたため逃げるができなかつた」「目が見えなかつたため逃げ遅れた」など悲しいニュースを何度も耳にしました。私はこのニュースを聞き、「周りの人が少しでも声をかけたり、一緒につれていくこともできただろうに。」と何度も思いました。そして、私は人を助けるちょっとだけの勇気があればいいと感じます。

また、私は去年家族で「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」という目が見えない人と同じ体験ができるところに行きました。そこは思っていた以上に暗く、本当にまっくらで、歩くこともできないくらいこわかったです。私はこの体験を通して、目が見えない人の不自由さが分かりました。また、耳が聞こえない人、他にも体に不自由がある人に、私にも何かできることがないかと思うようになりました。

その帰り道、たまたま目の見えない人が、車が走る道路を歩いていたので、「危ない！」と思い、少し勇気を出して声をかけました。もし、そのとき声をかけていなかったら、その人は事故にあっていたかもしれません。私は、この体験を通して少しだけ勇気を出して声をかけることの大切さを学びました。

最近、バリアフリーや障害について考えることが多くなりました。例えば、道を歩いていると、点字ブロックや手すりを思いうかべますが、歩いていると、点字ブロックの上に自転車が置いてあるところを見かけました。私は、これに対して、障害をもっている人のことを考えてほしいと思いました。

また、私には支援を受けている弟がいます。人よりできないことや、めいわくをかけてしまうこともあるけれど、私が困ったときに、助けてくれる大切な弟です。

弟も声をかければ、できることも多くなります。

様々な人が暮らす中で、「皆がよりよい暮らしができるように」と思っている人は多いと思います。その中で、困っている人に少しでも勇気を出して声をかける人が増えると、社会がもっとよくなると思います。「自分だけよければよい」ではなく、皆が安心・安全、そして心豊かにくらすことのできる世の中にしていきたいと思います。

また、障害をもっている人は、なりたくてなったわけではないので、これからも優しくあたりまえに声をかけたりすることを心がけたいと思います。